

( 国語 ) 科 ( 古典講読 ) シラバス		2 単位	H 2 2 普通科 第 3 学年 選択者
年間の到達目標		1. 表現分野 = 自分の意見や考えを文章にまとめることができるようになる。自分の意見や考えを的確に他者に伝えることができるようになる。 2. 古典分野 = 基本的な古文の文法を学習することにより、古人の優れた文章を読み味わい、内容を理解できるようになる。	
教科書・副教材等		古典名文選(教育出版)・全訳読解古語辞典(三省堂)・新総合図説国語(東京書籍)	
学期	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	4	大鏡「肝試し」	古文を読む意義を理解して古文に描かれた世界に関心を持つ。 繰り返し音読して古文に慣れ、古文と現代文の違いを理解し、文法的な法則に従って正しく口語訳する。
	5		
	中間考査範囲		実施しない。
	6	伊勢物語 「狩りの使ひ」 「身を知る雨」	古文世界に親しみつつその現代的な面白さを見つける。 歌物語という形式の中に表現される古代の恋愛観を読み取る。 「みやび」の美意識について理解する。
7			
期末考査範囲		上記の教材。	
〔備考〕		授業内に実施	
二 学 期	9	源氏物語 「桐壺更衣の死」 「かかやく日の宮」	世界的にも高く評価されている物語作品の読解を通して古人の思想に触れ、日本人の情感について探究する。 歌物語に描かれる古典的な恋愛観や生活習慣について知見を広める。また助動詞、助詞などの用法に習熟する。
	10		
	中間考査範囲		実施しない。
	11	源氏物語 「若紫との出会い」 「若紫の心細さ」他	古典文法の基礎を理解した上で自分なりの口語訳を試みる。 有職故実について見識を広め、貴族社会の道德観や人生観についても考えをめぐらせる。
12			
期末考査範囲		上記の教材。	
〔備考〕		授業内に実施	
三 学 期	1	源氏物語 「紫の上の苦惱」	物語世界を哲学的見地から読解する。 古典文学の意義について考える。
	2		
	学年末考査範囲		実施しない。
〔備考〕		一学期の評価、二学期の評価、及び三学期の評価を総合し、年間の評価とします。その割合はおおよそ40：40：20です。	
評価の観点	内 容		評 価 方 法
関 心 意 欲 態 度	授業中に真剣な態度で臨んでいるかどうか。 教材に対して興味・関心はあるか。 積極的に授業に臨んでいるか。		授業、学習活動に対する参加姿勢を観察する。 課題の内容及び提出状況を評価する。 定期考査の素点を加味する。
話 す 聞 く	考えを的確にまとめ相手に伝えることができるか。 相手の話を真剣に聞き、相手が何を伝えようとしているのかを的確につかめるかどうか。		発表での取り組み状況を観察する。 提出された課題の状況を評価する。 授業態度を観察し評価する。
書 く	自分の考えを的確にまとめ、文章にすることができるか。 正しい日本語で文章を書けるか。		提出された課題の状況を評価する。 定期考査の解答状況を加味する。 ノートの仕上がり状況を評価する。
読 む	目的に応じて様々な文章を読み取ることができるか。 正しい発音で美しく読むことができるか。		プリントなどの課題状況を評価する。 定期考査の解答状況を加味する。
知 識 理 解	学習した内容が正しく理解され、知識として身につけているかどうか。		定期考査の素点で評価する。 時間内小テストの成果で評価する。 ノートの仕上がり状況を加味する。